

金農生、スマート農業体験

大潟村 人材育成へ県立大が講座



位置情報を測定する生徒たち

県立大のアクリイノベーション教育研究センター（大潟村）で15日、金足農業高の2年生22人がスマート農業の体験学習を行った。最新農機に使われている技術に触れ、性能などへの理解を深めた。

県立大教員が講師を務め、生徒は自動走行するトラクターの仕組みを学習。衛星を使った高精度な位置計測システム（GNSS）を利用して直進していることを教わった。生徒は、支給されたスマー

トフォンで実際にGNSSのデータを受信し、センター敷地内6カ所の緯度と経度を測定。一般的に使われている地図アプリの計測結果と比較し、GNSSの方が実寸との誤差が少なく、より正確であることを確認した。

生物資源科2年の伊藤弥麻斗さん（17）は「学校の授業だけでは詳しく知ることができないので、良い機会になった」と話した。

県立大は本年度、スマート農業を担う人材を育成しようと、高校生向けの学習プログラムを開講。今回の体験学習が1回目。

©秋田魁新報社

（縮岡朋美）